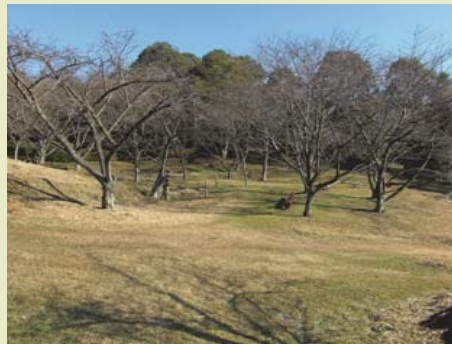


ふじつうぬまづこうじょう  
富士通沼津工場

所在地・・・静岡県沼津市宮本140

面積・・・534,670.97㎡

実施主体・・・富士通株式会社 沼津工場

問合せ先・・・【住所】静岡県沼津市宮本140  
【TEL】055-924-7203

富士通沼津工場内の緑地

## 整備の概要

取組み実施期間・・・昭和51年度(1976年度)から現在継続中

## ①「自然遷移の実施」に向けた整備手法

## Step1:年間緑地整備計画の策定

緑地を「庭園」、「里山」、「原生林」、「竹林」と称した4つのグループに区分し、**区画ごとに、将来を見据えた長期的な目標・整備方法等を決定した。**

## Step2:「庭園」の整備の実施

「庭園」の区画では、景観を重視した配置で樹木を植えている。また、樹木と調和するように芝やコケなどの植栽を行っている。さらに、美観を考えた剪定を行っている。

## Step3:「里山」の整備の実施

「里山」の区画では、動植物の生息する適した方法として、**除草剤は散布せず**に下草刈り中心の管理を実施した。

## Step4:「原生林」の整備の実施

「原生林」の区画では、**自然の自生能力に任せた管理を実施し**、必要に応じて間伐などを行っている。

## Step5:「竹林」の整備の実施

「竹林」の区画では、古い竹を中心とした間伐と周辺樹木への影響を抑えるための間伐を実施した。

## ② 整備時の協働者との関わり

—

## ③ 整備時の留意点

- \* 各区画の緑地の整備にあたっては、景観を重視した剪定、芝刈り、下草刈りを定期的実施し、また、**実生樹木や日照が入るように間伐を実施した。**
- \* 工場開設時に現存していた茶畑を残した。
- \* 有効活用出来ない間伐材は木材チップパーにて破碎して土壌と混ぜて緑地へ散布した。
- \* 工場内メイン道路については庭園と景観を意識した管理を実施した。

## 事業効果

- 工場緑地を開放した事で毎年、地域小学校が遠足として春と秋に訪れ、自然観察、環境教育やリクレーション等を楽しんでいる。
- 春にはアーチ状に咲く桜が沼津市内有数の名所となり多くの人は鑑賞に訪れている。
- 地域住民を招いた茶摘みフェスティバルを毎年開催し、手摘みや手揉み製茶体験等のイベントを実施している。

対象地の概要・・・広大な緑地は地域の貴重な自然資源でもあり、「環境を守り、自然との共存を図る」という理念のもと、緑化保全活動を実施している。小学校等の環境教育実施のため緑地の開放や、緑地内6kmの散策コースを設置し自然観察の設問が有るチェックポイントを回りながら自然に親しむ「自然観察ウォーキング」、さらには、親子サマーキャンプの実施など、多くの環境教育プログラムを実行している。

## 事業への取組みのきっかけ

環境教育推進法が平成15年(2003年)に施行されたことと、近年のCSR取り組みが重要とされている中で、現状の自然調査をもととして春、夏、秋、冬の四季毎の環境教育プログラムを作成し自然観察指導に活用するため、長年にわたり整備してきた工場緑地を有効に活用することを目的とし、施設内の緑地整備を行った。

## 維持管理の概要

## ④「自然遷移の実施」に向けた維持管理内容

愛鷹山麓に位置しているため周辺環境と調和した緑地に心がけた年間計画を定め維持管理を実施している。そのため**高度な維持管理技術が蓄積され、資源循環システムなども確立されている。**

## ⑤ 維持管理時の協働者との関わり

—

## ⑥ 維持管理時の留意点

—



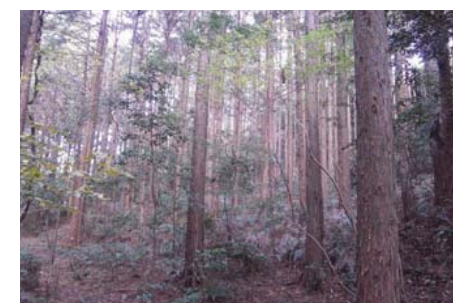
庭園エリア



里山エリア(クヌギ)



里山エリア(サクラ)



原生林エリア(ヒノキ)



間伐済のヒノキ



竹林エリア

## 備考

## 現在の課題

外来種との共存、若しくは駆除についてや、成長しすぎた樹木(15m以上)の維持管理が課題である。

## 今後の展望

過度な管理を進めず周囲と同様に最低限の管理を行い**自然の自生能力を最大限に引き出せる管理**に心掛けしている。例えば**最低限の下草の刈り込み、枝払い**を行う事で日光を取り込めるようにして低木、灌木類の育成を進めて本来の自生能力を引き出していく。

また、現在ある樹木について大きな意味での**ライフサイクルを勘案**して針葉樹主体にならないような管理を進めていきたい。